

## 優秀賞

笑顔が増える世界を

山形県 白鷹中学校 二年

竹田 あおい

先日、祖母の友人が亡くなった。祖母はバラが大好きで、祖母の家の庭にはたくさんのバラが育てられている。そのバラを教えてくれたのが、先日亡くなった友人である。

祖母とその友人は20年以上の長い付き合いで、いっしょに出掛けたり、互いの家を行き来し合う仲間だったそうだ。だが、友人は数年前から体調をくずし、闘病生活を送っていた。祖母は看病をするため、友人宅に足を運んでいた。身のまわりの世話をしてくれた祖母に、友人は、

「いつも来てくれて、ありがとうね。あなたといっしょに過ごせて、幸せだわ。」

と言ったそうだ。祖母は、

「あなたのお役に立ててうれしいわ。こちらこそ、ありがとう。」

と伝えた。

衰弱していく友人の姿を見ているのはつらかったが、枕もとでなつかしい話をしたり、写真を見たりして、最後の楽しいときを過ごしたと祖母が話をしてくれた。

私はその話を聞いて、心が温かくなるのを感じた。祖母の小さな親切は、その友人の幸せな最後の時間を作ったのだ。相手を思いやる気持ちが伝わってきた。同時に、私にも同じような経験があることを思い出した。

私が体調を悪くして学校を休んだとき、「大丈夫?」「早く治ってね。」と、友達から連絡をもらったことがある。学校から届いた連絡プリントには、クラスの仲間からのメッセージもあった。病気で弱っていた私は、友達からの優しい言葉がいつも以上に身にしみる思いだった。いつもはなにげなくしゃべったり、笑い合っている友達が、こんなにも私のことを想っていてくれたのかと、気づかされたメッセージで、心配してくれたことが、嬉しかった。

友達が自分のことを想ってくれている気持ちが伝わってきて、心から「ありがとう」と言いたい気持ちになり、回復後、私は友達に手紙を書いて、感謝の気持ちを伝えた。そしてそこには、私もいつも友達のことを大切に想っていることを書き添えた。

人から親切にしてもらったら、「ありがとう」とお礼を言いたい。そして、そこからもう一步進んで、私がしてもらって嬉しかったことを、ほかの人にもしてあげたい。そうやって次の人に親切をすることで、幸せのバトンがつながっていけばいいと思う。

思いやりの心は、人の心を和なごます力がある。みんなが思いやりを持って生活し、幸せのバトンがどんどん続けば、笑顔いっぱいの世界になると思う。